

児童発達支援ガイドラインによる自己評価について

事業所評価

2025年 1月
にこにこハート

児童発達支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、
児童発達支援に基づき実施した自己評価の結果を公表致します。

回収率：職員 100% (12名/12名)

《調査からの読み取り・改善点》

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	訓練室のスペース、職員の配置人数は適切である。 生活空間は清潔に保ち活動しやすいように配慮している。 季節や時期に応じて感染症の対策を実施。	毎日の清掃、玩具や室内の消毒実施。 感染症が流行する時期は湿度の確保や換気など感染症対策を強化している。
業務改善	定期的な研修やアンケート結果を踏まえ業務の改善に向けた情報の共有、実践を行い、提供するサービスの向上を図っている。	定期開催の職員会議の継続。 連絡ツールを活用し、日々の業務や療育場面での改善点や注意点などの情報を細かく共有している。
適切な支援の提供	定期的な職員会議の実施。他事業所との連携や保護者との面談、日々の生活での情報共有を行い、提供するプログラムや活動、関わり方など一人ひとりに合わせた対応が出来るようにしている。	日々の細かい情報などをご家族と共有を密に行い、職員全体で柔軟に動けるように心掛けている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	本人やご家族のニーズだけでなく、事業所や他機関で見せない一面など、本人やご家族の可能性を広げられるような支援をしていく。他機関と電話やメール文書にて、定期的なモニタリングの実施。	相談員や他機関との連携を図り日頃の様子や課題点などの共有をしていく。 現時点では他施設との交流は予定していない。
保護者への説明責任等	本人・保護者から頂く要望や生活上の課題点などは、内容・必要性に応じて会議等を行い、迅速に対応できるようにしている。個人情報の取り扱いや送迎時の対応に不備がないよう、定期的に研修を実施している。	アンケートだけでなく、利用時に連絡帳の活用、あわせて送迎時の保護者との会話や電話、LINEでやり取りを引き続き実施していく。
非常時等の対応	防災訓練として避難経路の確認や避難訓練、防災グッズの管理等を定期的実施。 虐待・感染症・緊急時などの各マニュアルの提示、定期的な研修やチェックリストの実施を行っている。	災害時に備え避難訓練年2回の実施。 委員会を運営し、研修や勉強会を行い、事業所間での情報共有・連携を図る。